

修了生に聞いてみました

Q.「教授システム学専攻」を受験しようと思った理由(目的)は?

- 病院の職員教育部門である学習システム室に配属となったが、どのような方法が効果的で、学習者および教える側も学びたくなるのか分かりませんでした。職員教育に携わるものとして、理論を学び、仕組みづくりが行えるようになりたかったため、受験しようと思った理由です。
- インストラクターとしてインストラクションを更に向上させる手立てが欲しかったし、職場で様々な教育に携わる立場として研修をもっと実りあるものにしたという願いがあったから。
- 人材育成のキャリアが積み重なってきて、研修の企画や学びの場づくりを、専門的な知識を背景に提案できるようになりたかったため。
- メディア教育についての専門的な知識とスキルを身につけたいと考えたからです。入学する少し前に、人事異動で、デジタル関連の教育を扱う部署に移ることになり、せっかくなら、その分野について深掘りしてみたいと思いました。
- 当時、組織内の人材開発を担当しており、従業員の教育プログラムを構築しなければならず、体系的に人材開発、人材育成を知っておく必要があったため。



Q.「教授システム学専攻」を修了し、当初の目的は達成できましたか?

- 職場の研修改善とインストラクターとしての活動にとって得られたものはとても大きく、達成できたと考える。
- 当初は、教育担当者であるにもかかわらず、何かを変えたいけど何をすればいいかわからなかったため、入学して学びたいと思いました。入学時は、研修が改善できないかと考えていましたが、そもそも研修が必要なのか、研修以外の方法で学習者にとって効果がある方法がないか、まずは考えるようになりました。まだまだ実践の中身ですので確かなことは言えませんが、何をすれば良いか、少し見えるようになってきたのかなと思います。
- 「仕事でインストラクショナル・デザインを活用できる」という目的は、進学して2年経ったあたりで達成できたような気がする(仕事で実践できるようになり、少し自信が持った)。
- 専門家としての視点を持つようになったため、目的は達成されたと思います。しかしながら、人事異動で担当が変わってしまったため、実践できてはいません。
- 達成できた!(つまり、新しい仕事を見つけた!)
- 新たな目標として、同志を地道に増やし、コツコツ貢献することが新たな道筋として立てられた。



Q.「教授システム学専攻」に在学中、印象深かったことは何ですか?

- 最も印象深かったのは同期の仲間との学び合い、そして先生方の熱意あるご指導です。まさに「楽しく楽しく」でした。2年間で修了をあきらめかけたこともありましたが、仲間や先生の励ましで実現できました。「eラーニング=孤独」というイメージを抱いていましたが、いい意味で裏切られました。
- いろいろな学び方があることを、「教授システム学専攻」の科目学習や合宿(オプション)を通して、自分自身で実践しながら理論を交え学ぶことが印象深かったです。学習目標、評価方法、方略をいかにマッチさせるか、考えていたようで、全く考えていなかったことに気づきましたし、学習方法においても、同期・非同期におけるプラス面・マイナス面を知り、学習者という立場と設計者という立場の両面を学ぶことができ、(それは、それは、大変でしたけど)、おもしろく感じました。
- 基盤的教育論®という授業です。この授業では、古今東西の教育理論をネタに、学習者個人の体験の振り返りしながら授業を進めていきます。単なる知識として各理論に触れるのではなく、自分の体験に結び付けて学ぶことで、学んだことを自分の言葉で説明できるようになり、知識を血肉化できました。知識は伝授するものではなく、学習者自身が構成していくものなんだと、学習者として経験をすることができ、とても印象的な授業でした。

*「基盤的教育論」は本専攻ウェブサイトの「公開科目」で体験できます。



Q.「教授システム学専攻」で学んだことはどのようなところで役立っていますか?

- インストラクショナル・デザインの分析・設計・開発・評価というシステムのアプローチは、教育だけではなく、あらゆる世界の問題解決に役立ちます。
- 在学中から、日頃の自身の業務に役立っています。修了後はキャリアアップに活かすことができました。また、在学中に出会った友人、恩師のみならずのご縁は、在学中大きな支えになっただけではなく、今後も人生を豊かにしてくれるのではないかと感じています。
- 現在、人事考課制度と連動する能力開発プログラムを各職種ごとに構築することに携わっているため、悩むことも多々ありますが、学んだことが役に立っていると感じます。自己学習するときは、どのように学ぶか考えるようになり、役に立っていると感じます。
- 論旨の組み立て方や研究の段取りは研究にかぎらず役立っています。動機づけ理論は人にちょっとしたお願いをするときやプレゼンなどでも活かれます。研究を続けながら結婚・出産・育児をしている先生や学生がいっぱいいるので、同じ女性として働き方の参考になります。

Q.「教授システム学専攻」のいいところは、どういうところですか?

- クラスメイトが多様なバックグラウンドを持っていたことです。医療や大学など、ほかのフィールドでは、どのようなことが教育上の問題になっているのか知ることができ、自分の考えの幅を広げることができました。また、背景知識や共通言語が異なるために、自分が常識だと思っていたことがうまく伝わらないことなどがあり、自分の考えを整理したり、知識を深める場として、とても有益だったと思います。
- まったく違う業界、地域、年齢層の方々と同級生になって、様々な教育実践例を聞くことが出来ます。所属はバラバラでも「よりよく教えたい」という目標は一致しているため、活発に討論でき刺激になります。対面授業がない分、先生方と一緒にゼミやチャットをしていただける機会が多く、結果として進学別の大学院よりも密にコミュニケーションが取れるのではないかと思います。
- 訓練の機会をたくさん与えてくれるところ。科目の学習も、合宿も、ストーリー中心型カリキュラムでの疑似体験も、すべてが専門についてのよい訓練の機会だと感じました。
- eラーニングでeラーニングを学ぶ点。在学中、国外を含めて転居したので、休学せず学び続けられるeラーニングは本当にありがたかったです。学生の多くが社会人であるという点、目的意識を持って真摯に学ぶ方が集まっており、同じ分野の方はもちろん違う分野の方も「よりよい教育」という共通した目標があり、大いに刺激になりました。



Q.「教授システム学専攻」を修了した結果、あなたはどのように変わりましたか?

- 教育で課題解決をする場合、どのような観点から考えプログラムを作成するのがよいか、既存のものを改善するにはどの部分を改善するのがよいか、といった考える切り口を見つけ、意見を持てるようになったことが変わったところかと思えます(意見が良いものは別として)。
- 以前行っていた授業では経験と勘に頼る部分が多かったのですが、なぜその指導方法が有効なのかなどを理論をもとに説明できるようになりました。授業でも自分の学習でも、はしめに現在位置と目的位置の差を確認し、最適な手法を検討するようになりました。簡単なeラーニング教材であれば一人で作れるようになったので、条件を変えながら色々検証できるようになりました。
- 時間の許す限り学習についての成書を読めた。課題についてのディスカッションによりよりやりがちな学習を深められた。インストラクションとは、講義をする・教える・指導するというより、学習者の自らの学びを支えることがより重要ではないかと思えるようになった。インストラクターの態度として、学習者の学びを促すことを心がけるようになった。
- 同じ人材育成に関するものでも、育成のコンセプトの話と、エビデンスを伴った成果の話の見極めができるようになりました。人材育成の分野では、コンセプト類の商品が多い状況が見えてきた気がしています。



Q.未来の入学志願者にひとことお願いします。

- 教育に携わっていて、少しでも何かを変えたいと悩んでいる人は、入学をオススメします。仕事との両立は大変だと思いますが、科目による学習に加え、先生方・同期生・先輩方から解決のヒントをもらうことができます。ヒントを得て、少しでも実践すると、まわりの人から良い反応が得られる機会が増えると思います。
- 本当に苦しいときもありましたが、私自身は入って良かったと思っています。口で説明するよりも、ぜひ体験していただきたいです。そして、入学後はパソコンと向かい合う時間に加えて、合宿や熊大ナイトで先生方や学びの仲間と熱い時間を過ごしてほしいです。一緒に楽しく学ばれよう!
- 短期的利益より長期的利益を信じる方のチャレンジをお待ちしています。
- 問題・課題意識があるなら、解決する方法を得るための道を探しましょう。恐らくそれはここにありますよ。
- 「教授システム学専攻」は修了後にジワジワと学びの効果を実感できることです。在学中は一心不乱に頑張らなければなりません。その結果は必ずついてきます。迷っているのであれば、早く入学して修了した方が良いでしょう。
- 「教授システム学専攻」は、伝えるべきものを持っている人へ最強の武器を与えてくれます。



教授システム学専攻 学生データ (平成26年4月現在)

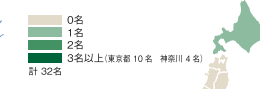
▼学生年齢構成

	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60(歳)	計	男	女
前期課程	▶ 1	4	10	11	11	2	3	3	45(名)	▶ 30	15
後期課程	▶ -	-	3	7	6	2	2	2	22(名)	▶ 17	5
科目等履修生	▶ -	3	9	7	6	3	3	1	32(名)	▶ 20	12

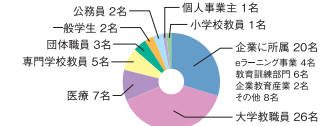
▼教授システム学専攻に在籍する学生の現住所



▼教授システム学専攻に在籍する科目等履修生の現住所



▼教授システム学専攻に在籍する学生の在職先



▼教授システム学専攻に在籍する学生の出身学部

